

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【公開番号】特開 2000-47596 (P2000-47596A)
 【公開日】平成 12 年 2 月 18 日 (2000.2.18)
 【出願番号】特願 平 10-217044
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 9 F 9/00

【 F I 】

G 0 9 F 9/00 3 4 8 P

G 0 9 F 9/00 3 0 4 B

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 6 月 28 日 (2005.6.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 1 0 】

フィルム状配線 38 は、通常、図 3 に示すように方形状をなし、フィルム内部に多数の配線 40 がそれぞれ平行に配列されており、その両端側 38a, 38b において各配線 40 の端部が接続用にそれぞれ露出されている。このようなフィルム状配線 38 が内部ユニット 26 の四辺縁部に多数配置されており、内部ユニット 26 を上方から見ると図 4 に示すように、フィルム状配線 38 がほとんど隙間なく配列されている。このため、従来のプラズマディスプレイ装置では、PDP 32 から熱伝導シート 34 を介してシャーシ部材 28 に伝わった熱や回路基板 36 上の部品（図示せず）から発生した熱が放熱されることによって昇温した空気が、図 2 において矢印で示すように、ケース 12 内部を上昇しても、内部ユニット 26 上部に配置されたフィルム状配線 38 によって空気の流れが阻害され、ケース 12 上部の通気孔 18 から排気されにくくなっており、その結果、PDP 32 や回路基板 36 上の部品の冷却効率を著しく低下させる原因となっていた。また、ケース 12 内の下部についても同様に、内部ユニット 26 の下部に多数のフィルム状配線 38 がほとんど隙間なく存在しており、これによってもまたケース 12 下部の通気孔 20 からの室温の空気の流入が阻害され、室温の空気により PDP 32 や回路基板 36 上の部品が冷却されにくい状態になっていた。